

第 106 回徳島県歯科技工士会生涯研修

【畑山賢伸先生 アンケート質疑応答】

●ジルコニアベースのインプラント上部構造のワンスクリューテストについて. 口腔内でのワンスクリューテストは上部構造試適時に行なっていると思われますが, 試適時はカスタムもしくはチタンベースの中間構造体とジルコニアが仮着されている状態で行われていると思います. 仮着状態だと, 完全な剛体ではないため, ワンスクリューテストの信頼性が高くないと考えていますが, 先生と共に仕事をされているクリニックではどのようにされているのかご教示いただければと思います. よろしくお願いたします.

ご質問の回答です

当院または外注でのジルコニアインプラント上部構造の試適は、チタンベースの仮着状態で行っています。講義でもお話しさせていただいた精度の高いベリフィケーションインデックス採得とプロビジョナルのコピーをもとに上部構造製作をしています。

エグゾキヤドなどでデザインする場合に、口腔内スキャンボディーデータの位置関係で製作するのではなく(精度が悪いため)、ベリフィケーションインデックス模型にスキャンボディーを締結してデスクトップスキャナーにてスキャンした STL データを歯列データにマッチさせてジルコニアを削り出しています。(ベリフィケーションインデックスの精密な位置関係が反映された状態)

口腔内試適時に誤差もほとんどないので、仮着状態でもワンスクリューテストが可能です。必ずプロビジョナルを装着して基底面も確立した後に、プロビジョナルと同じ形態でジルコニア上部構造を試適するので、粘膜を過度に圧迫する必要もないです。試適中にチタンベースが外れてくることもありません。

●カンチレバーインプラントでの注意点をお願いします。

ご質問の回答です

基本的にカンチレバーは 1 歯のみです。

連結部に大きな力がかかりますので、フレームの厚みに注意が必要です。

側方運動に参加させないことと、咬合接触を弱めに付与することを意識しています。

咬合接触を弱めに付与とは、カンチレバー部はオクルーザルシムストックが抵抗を持って引き抜ける状態です。

他の部位はオクルーザルシムストックが引き抜けない状態です。

それ以外は通常のポンティックと同様です。

●ASC(角度補正)で対応する場合外科的な制限のために使用せざるを得ないイメージなのですが、実践的にはどのような場合に使用されておられますか。

ご質問の回答です

当院の外科チームに確認しましたが、外科的な制限で使用することはあまりないようです。私が技工作業で ASC を選択するケースですが、前歯部で埋入時にインプラントが骨内で滑ってしまった、埋入時に麻酔中の患者が不意に動いた、噛み込んでしまった際に、切縁にアクセスホールが開口してしまう場合があります。

そのような場合は ASC を用いて角度補正をします。

臼歯部では機能咬頭部にアクセスホールが開口する場合に ASC で角度補正します。

いずれも埋入の誤差を補正するために使用するのであって、角度補正を前提とした埋入シミュレーションはしていません。

シミュレーション時にアクセスホール開口部が切縁部に出てくるような場合は、骨造成やインプラントポジションを再考します。骨造成などの外科処置を患者さまに同意が得られない場合は ASC を選択しますが、インプラントレベルの補綴様式になりマージナルボーンロスや細菌感染のリスクが高まる可能性があります。

ワンアバットメントワンタイムコンセプトを考慮する必要があります。

●臼歯部インプラント補綴において側方圧の負荷を避けるため咬合面をかなり小さくする方もおられますが、畑山先生は製作時どのようにお考えでしょうか。

ご質問の回答です。

臼歯部は臨在歯が 100%としたら、80%ぐらいのイメージで製作しています。

極端に小さくすることはないですが、天然歯と同等の大きさにすることはほぼありません。

ご質問のように、インプラントは側方圧の負荷に弱いです。

埋入されたインプラントの直径は天然歯歯根と比較して細いので、天然歯と同等の咬合面の大きさは不適切と考えます。大きすぎる咬合面はエマージェンスアングルの角度も大きくなり清掃性も低下します。

展開角は緩めに、咬合接触は中心窩付近を意識して B コンタクトと C コンタクトを意識しています。

●オープントレーで印象採得時にインプレッションコーピングの周囲を固定する方法がもう少し詳しく伺いたかったです。あれは単独歯の場合ということだったのでしょうか？それとも Br の場合も必要だったのでしょうか？

ご質問の回答です。

インプレッションコーピングのチムニーを延長して個人トレーとのレジン固定は単独歯のみの対応です。

Br の場合はかならずインプレッションコーピングを金属バーなどで連結する必要があります。複数のインプレッションコーピングが連結されていればシリコン印象体の内面で動いてしまうことはありません。